

令和 6 年度 播磨灘地区水産環境整備事業に係る効果把握調査業務  
特記仕様書

1. 業務目的

本業務は、平成 27 年度～令和 2 年度の期間に水産環境整備事業(播磨灘地区)で備前市日生町大多府島沖に整備したカキ殻敷設区において、水産資源の増大効果や付加的な事業効果の発現状況を把握することを目的として実施するものである。

具体的には、カキ殻敷設区において底生生物や魚介類の生息状況を現地調査で把握するとともに、整備計画の策定段階では想定していなかった付加的な事業効果の有無やその程度について検討するものである。

業務の遂行に際しては、「水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン(水産庁漁港漁場整備部、令和 2 年 5 月)」、「設計業務等共通仕様書、測量業務共通仕様書(岡山県土木部、令和 4 年 4 月)」、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書(国土交通省港湾局、令和 5 年 3 月)」に準拠するほか、この仕様書に従うこととする。

また本業務は、以下の既往成果の内容を踏まえて実施することとする。

- よみがえれ豊かな海再生事業(費用対効果分析等) (平成 26 年 3 月)
- 播磨灘地区水産環境整備事業 事業計画書 (令和 2 年 1 月)
- 平成 24 年度 岡山県備前海域カキ殻敷設効果調査  
(水産基盤整備調査費補助[備前海域]) 報告書 (平成 25 年 3 月)
- 平成 24・25 年度 岡山県備前海域カキ殻敷設効果調査  
(水産基盤整備調査費補助[備前海域]) 報告書 (平成 26 年 3 月)
- 平成 26 年度 岡山県大多府地区(漁場)カキ殻敷設効果調査  
(水産基盤整備調査費補助[大多府地区(漁場)]) 報告書 (平成 27 年 3 月)
- 平成 26・27 年度 岡山県大多府地区カキ殻敷設効果調査  
(水産基盤整備調査費補助[大多府地区]) 報告書 (平成 28 年 3 月)
- 平成 28 年度 岡山県大多府地区カキ殻敷設効果調査  
(水産基盤整備調査費補助[大多府地区]) 報告書 (平成 29 年 3 月)
- 平成 29 年度 岡山県大多府地区カキ殻敷設効果調査  
(水産基盤整備調査費補助[大多府地区]) 報告書 (平成 30 年 3 月)
- 平成 30 年度 岡山県大多府地区カキ殻敷設効果調査  
(水産基盤整備事業費補助[大多府地区]) 報告書 (平成 31 年 3 月)
- 令和元年度 岡山県大多府地区カキ殻敷設効果調査  
(水産基盤整備事業費補助[大多府地区]) 報告書 (令和 2 年 3 月)
- 令和 2 年度 岡山県大多府地区カキ殻敷設効果調査  
(水産基盤整備事業費補助[大多府地区]) 報告書 (令和 3 年 3 月)
- 令和 5 年度 播磨灘地区水産環境整備事業に係る  
効果把握調査業務報告書 (令和 6 年 3 月)

2. 業務期間

契約締結日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日

### 3. 業務場所

備前市日生町大多府島沖に整備したカキ殻敷設区(図 1)

### 4. 業務内容

#### 4-1. 業務計画

特記仕様書, 指示事項, 借用資料の把握及び業務遂行のための検討方針, 検討方法, 工程等を決定する。

また, 現地調査を円滑に実施するための関係機関調整(玉野海上保安部, 日生町漁業協同組合)を実施する。

#### 4-2. 現地調査

カキ殻敷設区において表 1 に示す内容の現地調査を実施する。

現地調査の実施時期は表 2 に, 現地調査を実施する地点, 区域は図 2, 図 3 に示すとおりである。

#### 4-3. 現地調査データの整理・解析

カキ殻敷設区の現地調査で取得したデータより, カキ敷設による底質改善効果を整理・解析する。

#### 4-4. 事業効果分析

「水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン」に従い, 費用対効果を分析する。費用便益分析では, 水産基盤整備事業によって得られる効果(水産物生産コストの削減効果、漁獲可能資源の維持・培養効果、生活環境改善効果等)を便益額として算出し, その事業に費やされた費用と比較する。

#### 4-5. 業務報告書の作成

4-1～4-5 の内容をとりまとめた業務報告書を作成する。

#### 4-6. 打合せ協議

業務着手時 1 回, 中間時 2 回, 成果品納品時 1 回の合計 4 回とする。  
協議内容及び提出書類は以下のとおりとする。

##### (1) 業務着手時

協議内容: 全体計画, 現地調査の作業計画の確認

提出書類: 業務計画書, 作業計画書

##### (2) 中間時①

協議内容: 現地調査の結果報告

提出書類: 中間報告書(現地調査結果)

##### (3) 中間時②

協議内容: 事業効果分析の結果報告

提出書類: 中間報告書(事業効果分析)

##### (4) 成果品納品時

協議内容: 成果品の確認

提出書類: 業務報告書, 関係添付図書及び現場写真

#### 5. 成果品

- |                              |     |
|------------------------------|-----|
| (1) 業務報告書(紙媒体[A4 版], ファイル綴じ) | 1 部 |
| (2) 関係添付図書                   | 1 式 |
| (3) 現場写真                     | 1 式 |
| (4) (1)~(3)を収録した電子媒体         | 1 部 |

#### 6. 留意事項

- (1) 調査時期, 調査地点等の詳細は別途, 監督員と協議の上決定するものとする。
- (2) 本業務に必要な文献等については委託者から提供する。
- (3) 本業務の遂行上, 疑義が生じた場合は, 監督員と協議の上決定しなければならない。

## 電子納品対象業務特記仕様書

### 第 1 条(電子納品の実施)

成果品は、岡山県電子納品ガイドライン(案)【業務編】(以下、「ガイドライン」という。)に基づき電子納品すること。

### 第 2 条(事前協議及び検査前協議)

業務の着手前及び納品検査前に、ガイドラインに基づく協議を行うものとし、受発注者間で業務着手前及び納品検査前に必要な合意を図るものとする。

### 第 3 条(成果品)

成果品は、電子成果品を格納した「電子媒体」を1部納品する。

また、簡易報告書(電子成果品の対象とする書類及び電子成果品の対象としない書類の全てを印刷し簡易加除式ファイル等に綴じる)を1部納品すること。

### 第 4 条(成果品の納品に係る費用)

成果品の納品に係る費用については、各積算基準に基づき計上する。

### 第 5 条(納品前の確認)

電子納品にあたっては、電子納品データのフォルダ構成、管理項目、ファイル名等のガイドラインとの整合性をチェックプログラム(岡山県電子納品チェックシステム)により確認し、エラーがないことを確認した後、ウイルス対策を実施した上で納品すること。

※岡山県電子納品チェックシステムのダウンロード

岡山県土木部技術管理課 HP

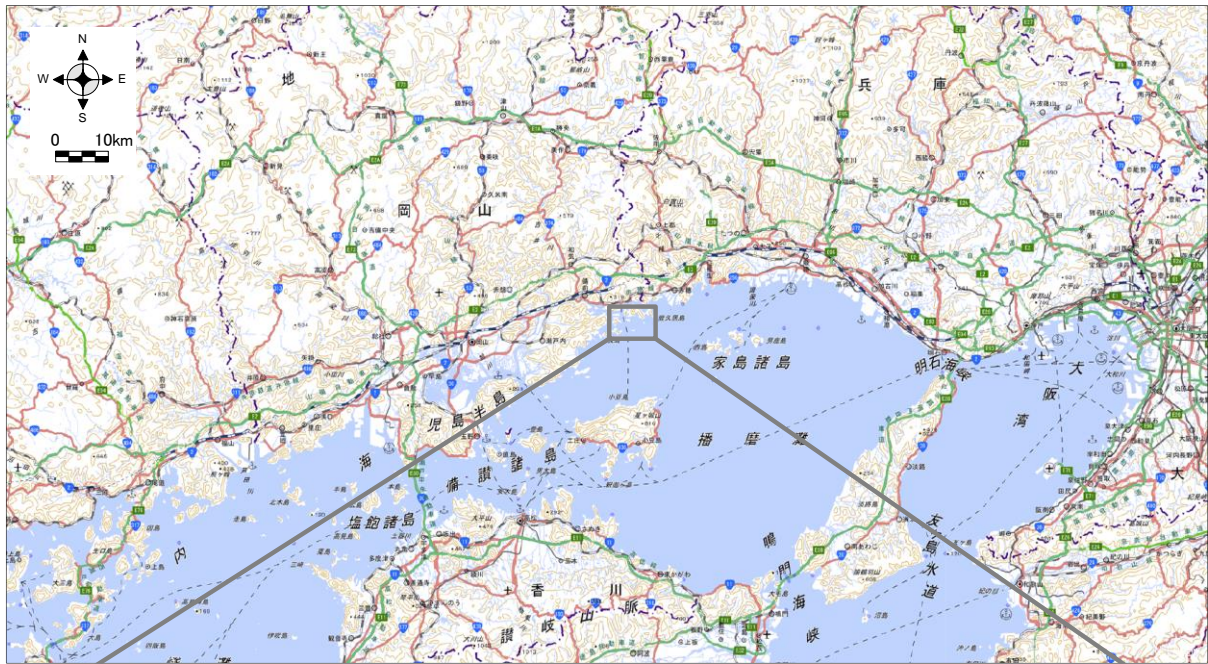
URL:<http://www.pref.okayama.jp/page/584683.html>

表 1 現地調査の内容

調査項目	調査方法	調査数量
海底耕耘	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆海底耕耘は、鉄枠の桁の両端にソリ状の鉄板と等間隔に取り付けられた爪を持つ戦車漕ぎ網及びナマコ漕ぎ網を使用して実施する。</li> <li>◆カキ殻敷設区の一部区域において、底引き網漁船で旋回・往復し、海底のカキ殻と底土を攪拌する。</li> <li>◆戦車漕ぎ網等を曳網中の底引き網漁船の航跡は D-GNSS で記録する。</li> </ul>	[St.1・St.3(図 2, 図 3)] 2 区域 × 1 回
底質	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆スキューバ潜水により表層から深さ 5 cm まで採泥し、以下に示す底質項目を分析する。</li> </ul> 分析項目： 酸揮発性硫化物(AVS)、強熱減量(IL)、COD	[St.1・St.3(図 2, 図 3)] 2 区域 × 3 箇所 × 1 地点 × 2 回 [St.7・St.8・St.9(図 2, 図 3)] 3 区域 × 3 箇所 × 2 地点 × 1 回
浮泥 ・堆積厚	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆カキ殻の上部に堆積している浮泥中に物差しを挿入し、その侵入長を浮泥の堆積厚として観測する。</li> </ul>	[St.1・St.3(図 2, 図 3)] 2 区域 × 3 箇所 × 3 地点 × 2 回 [St.7・St.8・St.9(図 2, 図 3)] 3 区域 × 3 箇所 × 3 地点 × 2 回
底生生物 ・種類 ・個体数 ・湿重量	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆海底に 25cm×25cm の箱型コドラートを押し込み、筒型スコップを使用して海底下 10cm までのカキ殻と底土を 1 地点当り 3 箇所て採取する。</li> <li>◆採取した底土とカキ殻を 1mm 目のフルイにかけ、フルイ上に残留した生物を試料とする。</li> <li>◆試料は、ホルマリン溶液を濃度 10%となるように添加・固定して分析室に持ち帰り、出現種の同定(綱レベル)・計数及び湿重量の計量を行う。</li> </ul>	[St.7・St.8・St.9(図 2, 図 3)] 3 区域 × 3 箇所 × 3 地点 × 2 回

表 2 現地調査の実施時期

調査項目	調査時期
・海底耕耘	[St.1・St.3] 令和 6 年 7 月
・底質	[St.1・St.3] 令和 6 年 7 月, 令和 6 年 8 月 [St.7・St.8・St.9] 令和 6 年 8 月
・浮泥の堆積厚	[St.1・St.3] 令和 6 年 7 月, 令和 6 年 8 月 [St.7・St.8・St.9] 令和 6 年 5 月, 令和 6 年 8 月
・底生生物の種類, 個体数及び湿重量	[St.7・St.8・St.9] 令和 6 年 5 月, 令和 6 年 8 月



地理院地図(電子国土Web)

図 1 業務場所

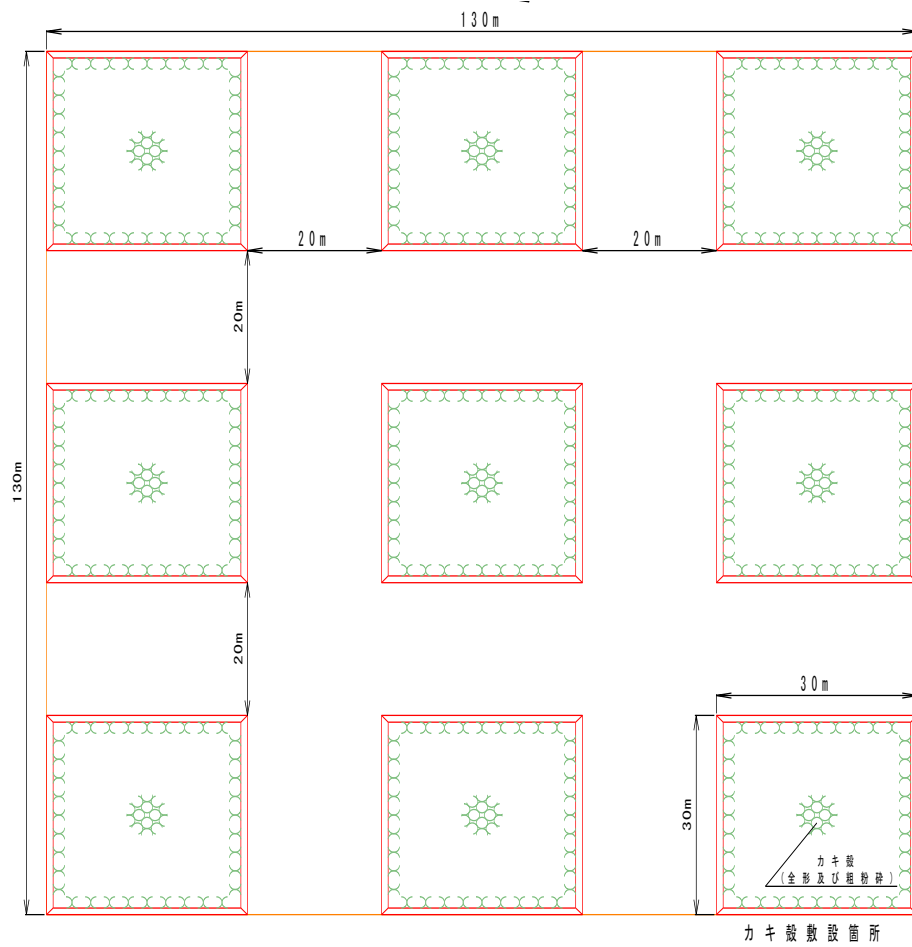
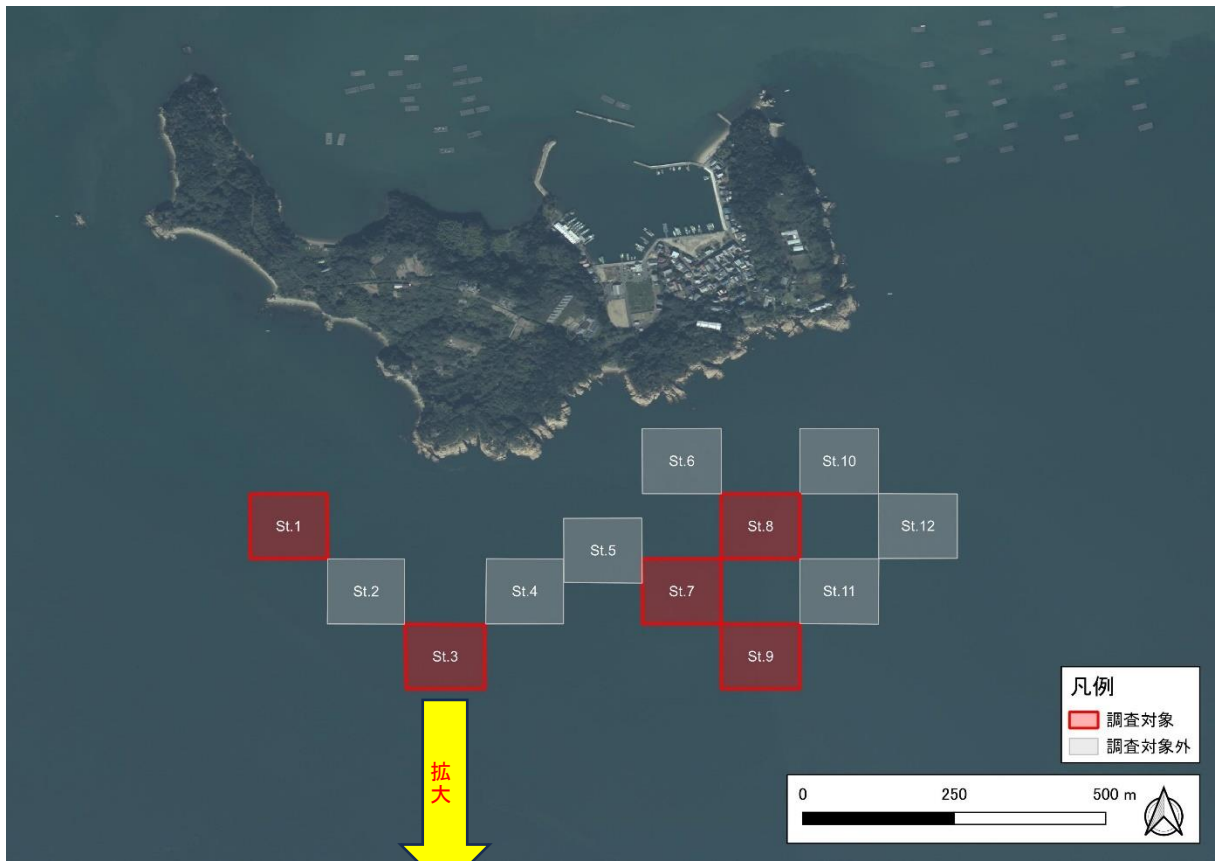
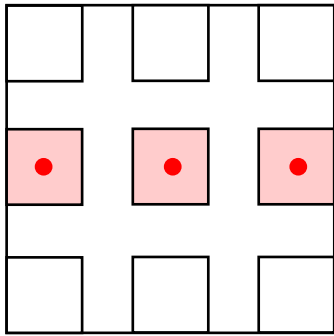



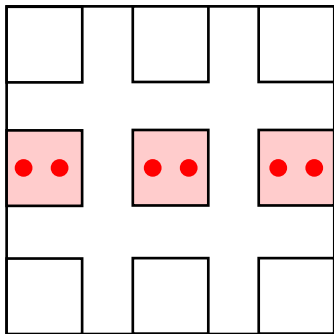
図 2 調査対象区の位置図

1 区画あたりの調査地点・箇所【底質調査 (St. 1・St. 3)】



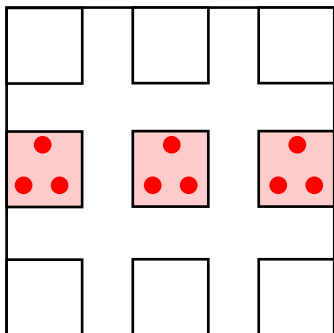
○底質  
3箇所  × 1 地点 ●

1 区画あたりの調査地点・箇所【底質調査 (St. 7・St. 8・St. 9)】



○底質  
3箇所  × 2 地点 ●

1 区画あたりの調査地点・箇所【浮泥調査・底生生物調査】




○浮泥、底生生物  
3箇所  × 3 地点 ●

図 3 現地調査を実施する地点、区域